

科目番号	51003	分類	履修者	高度実践看護コース	学年
科目名	クリティカル疾病特論 (Pathology of critically ill patients)				1
					配当学年 前期
担当者	〇浦中 桂一 他20名		区分	必修	単位
					2
					カリキュラム 60 特定行為研修(実時間) 研修対応時間 36.5
授業の概要および目標					学位授与の方針と関連
【概要】 クリティカル領域の医療現場で対応が多い疾患について、病態的な基礎知識を理解する。高度実践看護師としての実践に必要な疾病を理解することにより、患者に起こっている症状を臨床推論し、診断を確定していく能力につながる知識を修得する。					○ 1 クリティカル領域における患者の状況を総合的に判断する能力 ○ 2 クリティカル領域における患者に必要な治療を実践できる能力 ○ 3 果敢に提供するために医師等との協働ができ、ネットワークを推進できる能力 ○ 4 専門職としての倫理的判断決定能力 ○ 5 高度看護実践者として、教育的経理的な視点をもつコミュニケーション能力 ○ 6 臨床実践に基いた臨床知を形式知へと転出する研究開発能力 ○ 7 クリティカル領域における患者の危機的状況を支援する能力
【目標】 1. クリティカル領域の医療現場で対応が多い疾患の成り立ち、病態を理解する。 2. 患者に起こっている症状を臨床推論し、診断につながる疾病を理解する。					
授業計画					
回	内容				担当教員
(授業は隔不同)	<臨床生理学> I. 病態生理の理解：講義				浦中 他20名
第1回	(1) 病態生理と臨床症状				
第2回	(2) 水と電解質の病態生理 ・血液透析器及び血液透析濾過器のメカニズムと種類、構造				
第3回	(3) 血液は何をしているのか				
第4回	(4) 心臓・血管の動きと心音				
第5回	(5) がんの生物学 ・各種抗癌剤の適応と使用方法 ・各種抗癌剤の副作用				
	<臨床病理学> II. 病態生理の理解：講義				
第6回	(1) 肺の生理からみた呼吸管理 ・気道確保に関する局所解剖 ・経口用気管チューブ又は経鼻用気管チューブの位置の調整に関する病態生理 ・経口用気管チューブ又は経鼻用気管チューブの位置の調整に関するフィジカルアセスメント				
第7回	(2) 中枢神経異常の局在診断				
第8回	(3) 痛みと鎮痛のメカニズム ・硬膜外麻酔を要する主要疾患の病態生理 ・硬膜外麻酔を要する主要疾患のフィジカルアセスメント ・硬膜外麻酔の目的 ・硬膜外麻酔の適応と禁忌 ・硬膜外麻酔に伴うリスク (有害事象とその対策等)				
	<臨床病理学・臨床生理学> III. 各疾患における病態、診断するために必要な検査、治療の理解				
第9回	(1) 心血管の問題 ・心房細動・心房細動の管理、頻脈と除脈の管理 ・一時的ペースメーカーの適応と禁忌 ・一時的ペースメーカーに伴うリスク (有害事象とその対策等) ・ペースメーカーの種類とメカニズム ・ペースメーカーのモードの選択と適応 ・一時的ペースメーカーの操作及び管理方法 ・患者・家族への指導及び教育				
第10回	・急性冠症候群				
第11回	・心不全の管理、高血圧緊急症				
	(2) 腎に関する問題				
第12回	・急性腎不全 ・手術室およびICUにおける輸液療法				
第13回	・アシドーシス患者への対応 ・ナトリウム異常 ・カリウム異常				
第14回	・電解質 (ナトリウム、カリウム、クロール) 輸液療法、糖質輸液、利尿剤投与調整				
第15回	・透析を受ける患者の問題 ・一般病棟における輸液療法 ・血液透析及び血液透析濾過の方法の選択と適応 ・血液透析器及び血液透析濾過器の操作及び管理の方法				
第16回	(3) 消化器に関する問題 ・急性腹症・虫垂炎				
第17回	・肝疾患 (とくに肝硬変患者の管理) ・上部消化管出血				
第18回	・急性肺炎				
第19回	・イレウス・憩室炎				
第20回	(4) 呼吸器に関する問題 ・結核患者の診療と管理				
第21回	・喘息の管理 ・COPD (人工呼吸管理含む)				
第22回	・肺炎、肺塞栓 ・経口又は経鼻気管挿管の適応と禁忌 ・経口用気管チューブ又は経鼻用気管チューブの種類と適応 ・経口用気管チューブ又は経鼻用気管チューブによる呼吸管理				
第23回	(5) 神経に関する問題 ・脳梗塞急性期の管理				
第24回	・くも膜下出血・脳出血急性期の管理				
第25回	(6) 精神に関する問題				
第26回	・不穏・錯乱状態・せん				
第27回					
第28回	・薬物過剰使用 ・アルコール関連問題 ・自殺傾向のある患者の管理 ・抗精神病薬、抗不安薬、抗けいれん剤 ・精神・神経系の局所解剖 ・神経学的主要症候 ・精神医学的主要症候 ・主要な神経疾患と病態生理 ・主要な精神疾患と病態生理 ・けいれんの原因・病態生理 ・けいれんの症状・診断 ・抗けいれん剤の種類と臨床薬理 ・各種抗けいれん剤の適応と使用方法 ・各種抗けいれん剤の副作用		・統合失調症の原因・病態生理 ・統合失調症の症状・診断 ・抗精神病薬の種類と臨床薬理 ・各種抗精神病薬の適応と使用方法 ・各種抗精神病薬の副作用 ・不安障害の原因・病態生理 ・不安障害の症状・診断 ・抗不安薬の種類と臨床薬理 ・各種抗不安薬の適応と使用方法 ・各種抗不安薬の副作用		
第29回					
第30回					
第31回	(7) 内分泌・代謝に関する問題				
第32回	・糖尿病性昏睡の管理 ・病態に応じたインスリン製剤の調整の判断基準 (ペーパーシミュレーションを含む)				
第33回	事前学習：当日の課題に関し参考図書の内容を予習し理解して授業に参加する。 事後学習：授業の内容を配布資料と参考図書等で復習する。 単位と時間数に応じた学習時間 (学生便覧参照) を参考に組み立てる。				
評価の方法	筆記試験 (80%) と病態生理の理解 (演習) に関する課題レポート (20%) で評価する。 この他に、観察評価を行う。 フィードバックは適宜行う。				
参考図書・資料等	① 松尾 理監訳：カラー図解 症状の基礎からわかる病態生理、発行所：メディカ出版 ② シルビア・C・マッキーン他：病院勤務医の技術、日経BP社 ③ 病気がみえる Vol.4 呼吸器 第3版、発行所：日経BP社 ◎は授業の必須図書ですので、購入していただきます。				
備考	オフィスアワーについては、学生便覧を参照し、教員と日程調整をする。				